

令和5年度第1回大阪府市地方独立行政法人  
大阪産業技術研究所評価委員会  
議事要旨

- 1 日 時 令和5年7月20日（木）午後1時～午後5時  
2 場 所 地方独立行政法人大阪産業技術研究所 森之宮センター 3階 大講堂  
3 出席委員 湯元委員長、呉委員、田畑委員、床波委員、中磯委員  
4 議事内容

(1) 令和4事業年度の業務実績に関する自己評価及び評価結果（案）について

- ・資料1から4に基づき、令和4事業年度の業務実績に関する法人の自己評価及び知事の評価結果（案）について法人及び大阪府から説明が行われた後、小項目評価、大項目評価及び全体評価について審議が行われた。
- ・令和4事業年度の業務実績に関する評価（案）や、次年度以降の法人運営に関する主な意見は以下のとおり。

<主な意見>

【小項目1～5】

- ・全体的に数値目標における法人の自己評価の基準が厳しい。「Ⅳ」と「Ⅴ」の基準をもう少し低く設定してもよいのではないか。
- ・サービス向上等の目的のために行っている利用調査において「料金が高い」との意見に対しては、自社で導入すれば高額となる機器を低コストで利用できるなど、利用満足度を高められるよう説明や周知を工夫して行ってもらいたい。

【小項目6・7】

- ・委員が評価を判断しやすいよう、法人の自己評価の理由に補足数値や根拠をもっと明確に記載してもらいたい。
- ・法人が行う各種セミナー等の機会を通じて、オーダーメイドやレディメイドの各研修に企業を誘導していくなど、工夫して取り組んでもらいたい。
- ・第2期中期目標期間の1年目であり、コロナ禍からの回復や、今後の実績回復のための法人の努力や取組に期待し、委員会の意見は法人及び府評価案と同様の評価とする。

【小項目8】

- ・知的財産出願・秘匿化件数が令和5年度は少し増えているようなので、その結果を見守りたい。
- ・研究所のシーズは先進的なものが多く、実用化に直ぐに結びつかず、実用化できても時間がかかる。（知的財産出願・秘匿化件数に直結しにくい。）
- ・技術情報の発信件数は、製品化・実用化につなげるセミナーと学会発表・論文投稿等による成果普及の二つの項目にまたがっていて分かりにくいので、その評価の判断理由を記載する際は気をつけてほしい。
- ・第2期中期目標期間の1年目であり、今後の実績回復のための法人の努力や取組に

期待し、委員会の意見は法人及び府評価案と同様の評価とする。

【小項目9～11】

- 研究所の最大の資源である人材をいかに確保していくのが大変重要。引き続き取り組んでもらいたい。
- 職員のモチベーションや満足度を高められるよう引き続き取り組んでもらいたい。

【小項目12～16】

- 職員一人ひとりが無事故・無災害の意識を持つことが大事。それを目標に掲げて取り組んでもらいたい。
- 情報漏洩やコンプライアンスなどの危機管理に関する取組について、法人全体で更に意識をもって取り組んでもらいたい。
- 自己評価の記載内容は、職員のモチベーションにもつながるものとなるよう工夫してもらいたい。

(2) その他

特になし

以上